

教点連ニュース 第3号 No. 3

平成19年10月25日

・第2回セミナーの内容

地域の学校で学ぶ児童・生徒のニーズに応える ― 点字教科書を考えよう

日時：2007年11月10日(土)10～17時

場所：大阪・玉水記念会館

大阪市西区江戸堀1丁目10-31 TEL. 06-6441-0169

地下鉄四つ橋線「肥後橋」8号出入口西へ徒歩3分

「点字教科書・拡大教科書・マルチメディア教科書展示会」

10:30～17:00〔1階ロビー〕（入場無料）

地域の学校で学ぶ児童・生徒のニーズに合わせた各種媒体の教科書を一堂に展示。

今後の製作の参考になる、盲学校用点字教科書、その原本及び教科書編集資料。

各教科毎にそれぞれの担当者による製作の苦労や工夫の情報交換ができます。

セミナー「地域の学校で学ぶ児童・生徒のニーズに応える点字教科書を考えよう」

総合司会：野々村好三氏

参加費：非会員は1000円(会員及び展示団体は無料)

お申し込みは10月31日までに日本ライトハウス盲人情報文化センター前田まで。

(e-mail:mmaeda@lighthouse.or.jp Tel 06-6211-1500 Fax 06-6211-1590)

13:00 開会

13:20～14:20 パネルディスカッション「点字教科書製作の現状と課題」：司会三上洋氏

(1) 「点字教科書供給体制の充実を目指して ― 大阪府立高校の取り組みと点字教科書や学内試験の充実」 高橋世貴子氏(教科書点訳の会事務局)

(2) 「触読者の立場として：点字教科書製作に思うこと ― 学校、本人、保護者のニーズ調整から見えてくるもの」 奥野真里氏(名古屋盲人情報文化センター)

(3) 「わかりやすい教科書製作を目指して」 小原二三夫氏(日本ライトハウス盲人情報文化センター)

14:20～15:00 展示会での交流

15:00～15:30 講演「拡大教科書製作の現状と課題 ― 教科書バリアフリー法推進活動の提案」 講師：宇野和博氏(筑波大学付属視覚特別支援学校)

15:30～16:20 フリートーク司会：野々村好三氏

「視覚障害児童・生徒のニーズに応える点字教科書製作の取り組み」

☆ 点字・拡大教科書の製作に携わっておられるグループのみなさまからそれぞれに抱えておられる問題点を出していただきます。「よい教科書」を提供したとしても、点字や拡大、視覚障害児のことが理解できる「人」が学校現場に必要ではないか…。

16:30 まとめ

16:45 閉会

<みなさまへ>

11月10日(土)の教点連セミナーにふるってご参加ください。会員以外の方にも出席方お誘いください。

連絡先：社会福祉法人日本ライトハウス盲人情報文化センター

e-mail：mmaeda@lighthouse.or.jp 担当：前田美代子

Tel 06-6211-1500 Fax 06-6211-1590

- ・点字教科書を必要とする統合教育を受けている児童・生徒

全国視覚障害者情報提供施設協会に所属する点字図書館、公共図書館、ボランティアグループ及びその他、事務局で把握できたボランティアグループに送った第1次アンケート調査の結果がまとまりました。これでやっと、全国で統合教育を受けている児童・生徒のうち、点字教科書が提供されている実態がほぼ正確に把握できたこととなります。現在、この児童・生徒を支援している関係者に第2次アンケートを送付して、教科ごとの使用している教科書名等について詳しく調査を実施している最中です。回答が集まったところで、広島大の牟田口先生に集計してもらいます。

なお、全日盲研の普連協がまとめた盲学校の支援児童・生徒のうち、点字教科書を必要とする者は、各盲学校に電話による問い合わせをした結果、ボランティアグループ等からの回答の中に、すべて含まれていることが判明しました。

実態は以下の通りです。

小学1年生(男1、女2、不明1)、計3人。小学2年生(女1、不明1)、計2人。

小学3年生(男1、女2、不明1)、計4人。小学4年生(男2、女2)、計4人。小学5年生(男4、女4)、計8人。小学6年生(男1、女4)、計5人。

中学1年生(女3)、計3人。中学2年生(男5、女4)、計9人。中学3年生(男4、女2、不明1人)、計7人。

高校1年生(男1、女4)、計5人。高校2年生(男1)、計1人。高校3年生(男1、女1)、計2人。

高校生を除く、義務教育段階の統合教育児童・生徒は、男性18人、女性24人、不明3人、合計45人となっています。この人たちが文科省から支給される点訳料で点訳した点字教科書を使用していることとなります。

- デジタルデータ提供について

10月23日午後3時に教科書協会を訪れ、点訳用デジタルデータの提供について話し合ってきました。出席者は、渡辺能理夫デジタルデータ小委員会委員長、橋本正之教科書協会事務局長、教点連側は、田中理事長、込山事務局長、高橋実理事の3人でした。

教点連の願いは、(1)拡大協議会へ提供しようとしている教科書のデジタルデータを教点連にも提供してほしい、(2)可能ならデータを国立特別支援教育総合研究所の「視覚障害教育情報ネットワーク」にアップしてほしい、の2点でした。

回答は、いずれも問題ないので、協力したいというものでした。特に(2)のデータアップについては、お互いに手間が省けるので大賛成。すぐに特総研と相談したいということでした。拡大協議会はCDRで提供を希望しているが、著作権法にふれない契約をしたり、CDRを郵送したりしなければならないので、たいへんな作業だと言っていました。

教点連では、「ニュース第2号」でお知らせしましたように、特総研の「視覚障害教育情報ネットワーク」には、会員として申込みばパスワードを発行してもらえます。そのパスワードを使ってネットワークに入れば、教科書のテキストデータを見たり、ダウンロードしたりすることができます。

今のところ11月下旬には、下の3教科のデータをあげる予定だということなので、会員の皆様には、今から特総研に申請してパスワードをもらっておいてほしいと思います。

連絡先は、独立行政法人国立特別支援教育総合研究所企画部の金子健主任研究員です
(住所：横須賀市野比5-1-1 電話：046-839-6832 情報管理係)。

現在は、テストケースとして3教科に限っていますが、1、2年後に予定されている新教育課程に移行するときまでには、全教科書会社の全教科のテキストデータを提供できるようにしたいということでした。大いに期待したいものです。

(小学校3年用)

国語：(出版社名、以下同じ) 東書、大書、学図、教出、光村

理科：東書、大日本、学図、教出、信教、啓林館

(小学校3・4年用)

社会：東書、大書、教出、光村、日文

(中学1年用)

国語：東書、学図、三省堂、教出、光村

地理：東書、大書、教出、帝国、日文、日新

理科2分野上：東書、大日本、学図、教出、啓林館

- 会員の消息

会員の西野さんからご意見をいただきましたので掲載します。西野さんのような考え方をされる方がいらっしゃるのには確かです。一方、責任のある点訳をしている施設等に言わせれば、1ページ600円ではとても採算が合わないというのも事実です。

これからどんどんふえていく統合教育を受ける視覚障害児童・生徒に、どのように点字教科書を補償していかなければならないか、西野さんのお考えは大きな示唆を与えてくれます。

乙訓点訳サークル 教科書等学校教材

点訳窓口 西野旬子

乙訓点訳サークルではこれまで京都府内で計4人の中学校に通われていた中学生の理科の教科書(副読本・テスト等も)を点訳してまいりました。義務教育の点訳教科書が国で補償されるようになりまして、昨年度からはお断りし、乙訓に依頼されるものは情文(日本ライトハウス盲人情報文化センター)さんの方へお願いして頂くようにしております。

理由は、ボランティアで義務教育の教科書を点訳するにはかなりの無理があること(知識・設備等)、点訳内容にどこまで責任が持てるか不安があること、国費になりましてボランティアとして多額の点訳料が入りすぎることです。

現在は私をはじめ乙訓点訳サークルの4名が情文で受けられました教科書の点訳のお手伝いをしております。

7月に地元長岡京市の中学校の校長先生から、弱視在籍生徒(長岡京市立第3中学校 現在2年生の女子)の視力が悪くなってきて、来年度から副読本の点訳をお願いしたいと会長の方へ連絡が入っております。昨年からは週に1回程度盲学校から先生が来られているとか? 教科書その他どのようにされるとか詳しいことは知らされておられません。

こちらはこれまでに何人かお手伝いをして少しは状況がわかっておりますので、出来るだけよい方法をとっていただけるように早く話し合いをしたいと思っておりますが……、難しい状態です。

本題と離れまして恐縮ですが私が感じていることを書かせていただきます。

私はこれまで7年間、大日本図書と啓林館の中学校の教科書を各2種類ずつ(教科書検定で変わっておりますので)点訳をしております。教科書が国費になって、盲学校と同じ教科書は盲学校用を使い、同じでないときは点訳を依頼することになっております。

理科の教科書の場合、盲学校用は実験その他視覚障害者が出来るように変更になっております。

例えば盲学校用の教科書には顕微鏡などは出てきませんし、メモリを読むこともありません(メスシリンダーのメモリの読み方は出てきますが、電流計や電圧計のメモリの読みなどはないと思います)、目で見てする実験はすべて視覚障害者が出来る形になっているか、省略です。これまで中間・期末テストなどを点訳してまいりましたが、普通校で理科の盲学校用の教科書を使って授業に差支えがないのか非常に疑問に思っております。この辺のことについてのご意見とかはこれまで出ていないのでしょうか?

私は理科の教科書につきましては盲学校用が省略・変更している部分だけでも点訳を依頼してそれを国費で保障してもらいたいと思っております。

以上乱文で失礼いたしました。私は今後、教科書はサークルからではなく、情文からお手伝いをするようになると思います。

ボランティアサークルとして、有償で点訳ということに抵抗を感じられる方がおられます。謝礼程度は頂くけれど・・・1枚〇〇円というかたちは好ましくないようです。

でも教科書をはじめ学校で必要な教材は国が補償してそれに見合った金額の点訳料を出されるのは当然と思っています。

学校教材はすべて国費、地元の点訳ボランティアは視覚障害の生徒さんが家で勉強される問題集などを無料で点訳するのがいいと思っております。

・会員拡大にご協力ください

教点連の年会費は、(1)情報提供施設 2万円、(2)ボランティア団体 5千円、(3)協力個人 5千円となっています。統合教育を受けている児童・生徒のために教科書を点訳しておられる団体以外でも、会員になっていただければ、点訳活動に役立つ情報が得られます。ぜひお知り合いのボランティアグループや点訳者個人にご入会をお勧めください。

発行日：平成 19 年 10 月 25 日

発行所：NPO 法人全国視覚障害児童・生徒用教科書点訳連絡会

発行人：田中徹二

連絡先：(社福) 日本点字図書館 担当：田中・松本

〒169-8586 新宿区高田馬場 1-23-4

Tel：(03)3209-0241 Fax：(03)3204-5641

E-mail：nitten@nittento.or.jp